

教 育 長 様

校番 069 高陽東 高等学校長

「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校 令和2年度 報告書

1 研究の概要

研究の目標

論理的思考力を育成するカリキュラムについて、総合的な探究（学習）の時間を中心に各教科等をつなぎ、「深い学び」を生み出すカリキュラム・デザインに係る研究を行う。

総合的な探究の時間等の取組内容

① 生徒の状況把握及び分析

「産業社会と人間」や「総合的な探究（学習）の時間（Epoch I・II）」の各単元で特に育成したい資質・能力においては、学校全体で育成する生徒の「資質・能力」である①見つける力（課題発見能力）②考える力（探究力）③繋がる力（社会参画力）の3つの尺度の中から整理した。各単元での生徒の成果物（発表原稿・発表資料等）や自己評価表（振り返りシート）を評価するために3段階の段階的なルーブリックの作成を行った。また、生徒の自己評価の妥当性を高めるために、発表会を実施した際に生徒間での相互評価を行ってから自己評価表を記入するようにした。

② 育成する資質・能力の設定（共有）

資質・能力については、課題発見・解決学習推進プロジェクト担当者と管理職等が、国の答申、学習指導要領、県の施策、本校の教育目標、校訓、総合的な学習の時間の目標、Society5.0、地域や生徒の状況等を踏まえて設定した。校内への普及活動においては、課題発見・解決学習推進プロジェクト委員会（月1回：第4火曜日約1時間）で各教科主任に説明、各教科主任は教科マネジメントを生かして教科会で説明した。また、課題発見・解決学習推進プロジェクト担当者が研修会を開き、全体に説明した。その他には、総合的な探究（学習）の時間や教科「産業社会と人間」担当者が、担当者会議や全体計画説明時等を利用して説明した。校内研修会なども開き、指導助言者である広島大学の松浦准教授を講師として迎え、研修会の中で資質・能力の捉え方及びその評価方法について御教示をいただいた。

③ 資質・能力の育成に向けた各種計画の作成

「産業社会と人間」及び「総合的な探究（学習）の時間（Epoch I・II）」において、各単元を実施する前に担当者連絡会議を実施し、単元指導計画及び活動内容、評価方法について協議を行っている。また、指導助言者である講師の先生方と教育研究部の各学年の担当者間で、単元全体を通してより主体的な学習活動になるように、事前協議会を行い、より効果が期待できる取組について打ち合わせを実施している。総合的な探究（学習）の時間、各教科・科目、特別活動等を横断的なカリキュラム・マネジメントの視点から資質・能力を育成する効果的な関連のさせ方（目標関連・内容関連）、また関連させた横断的・総合的な学習（授業）の効果的な実践方法について継続的に研究し、その研究結果を踏まえて授業づくり研修会を実施している。特に、「産業社会と人間」から「Epoch I」、「Epoch II」へと学年が進行する中で、本校で身に付けさせたい資質・能力のレベルが向上するような取組を、教育研究部を中心に、教務部、進路指導部等と連携しながら推進した。

④ ③に基づく教育活動の実施状況

・1年次「産業社会と人間」

ひろしまジン大学理事長平尾順平先生や広島県（特に学校がある安佐北区）で活躍されている社会人講師（5名）と生徒が、仕事について職業人講話（トークライブ形式のパネルディスカッション）を行った。

・2年次「総合的な探究の時間（Epoch I）」

課題設定からプレゼンテーションまでを段階的・系統的に学ぶための「探究ノート」に集めた情報を活用して、各ゼミ内での発表会（2回実施）及び2年次全体で閲覧会を行った。また、SDGs行動宣言発表会にお

いて、「探究ノート」内の情報とSDGsのゴールを結び付けた行動宣言書等を作成した。また、地学基礎の授業において、資質・能力を育成する効果的な関連のさせ方（目標関連・内容関連）や、関連させた横断的・総合的な学習（授業）の効果的な実践として「質問づくり」等を、専門家と連携しながら行った。

・3年次「総合的な学習の時間（Epoch II）」

「探究ノート」に集めた情報を活用して4000字レポートを作成し、発表資料にまとめ、その内容をゼミ別発表会にて2年生に対して行った。また、各ゼミの代表者の中から8名が生徒発表会で全学年に対して行った。

・校内体制づくり（教員研修等）

授業づくり研修会（年3回）、若手教員を中心としたグループ主体の授業研究（ICT化活用を含む）、指導助言者による校内研修会（ルーブリックの作成及び活用）を実施した。

⑤ 評価活動（ルーブリック等の活用等）

・「産業社会と人間」においては、各単元項目終了後に担当者2名と教育研究部1名の合計3名でルーブリックに照らし合わせながら生徒の成果物等を評価し、それぞれ育成したい資質・能力についてA/B/Cで総合評価を行い、別紙に評価内容を記載し返却した。また、学年末にはこれまでの総合評価を5段階評定に換算し算出した。

・「総合的な探究（学習）の時間（Epoch I・II）」においても、各単元項目終了後に担当者1名と教育研究部1名の合計2名でルーブリックに照らし合わせながら成果物等を評価し、それぞれ育成したい資質・能力について5/4/3の総合評価を行った。また各学期末には文章での評価内容を別紙にて記載し生徒へ返却した。

・各単元終了後、授業担当者に単元振り返りシート（アンケート含む）の記入を依頼し、その結果を踏まえて担当者会議にて協議を行った。その際、生徒の成果物（自己評価表・学習記録等）の評価の妥当性についても検討を行い、次の単元の到達度目標の確認及び学習活動における指導の統一等を図った。

⑥ 次年度計画への反映

これまで行ってきた評価活動は全て教育研究部がデータ化し、閲覧可能な状態にしている。次年度に向けてこのデータ化した評価資料（生徒の成果物、自己評価表、学習活動全般の様子等）を各学習担当者や担当者以外にも共有し、目標・指導・評価の一体化について協議し、計画に反映させる。

成果

・1年次「産業社会と人間」

働くことの意義を考えることができた。また、講師の方から高校時代にすべきことを示唆していただき、進路実現に向けて科目選択等の具体的な行動を考える一助とすることができた。

・2年次「総合的な探究の時間（Epoch I）」、「地学基礎」

地学基礎ではICT環境（Zoom）を活用し、鹿児島県薩摩硫黄島でSDGsの達成に向けて活躍されている大岩根尚先生とリモートで「質問づくり」を行った内容や「探究ノート」に収集した情報の充実が行動宣言書の内容にも反映し、具体的な行動宣言書となった。また、バックキャストिंगの視点で捉え、個々のライフプランとの関係性を整理できた。

・3年次「総合的な学習の時間（Epoch II）」

2年次から継続している「探究ノート」の充実がレポートの内容に表れ、独自性の高いものになった。また、ゼミ別発表会では、Epoch I・IIでの探究活動の効果を2年次生に示すことができた。リモートで実施した生徒発表会では、各ゼミからの代表者8名がゼミ別発表会後も発表内容を再構成したりしたことにより良いものを下級生に示し、探究活動の効果をつなぐことができた。

・校内体制づくり（教員研修等）

大学教授等による講演会を実施し、京都産業大学総合生命科学部教授佐藤賢一先生、広島大学大学院教育学研究科准教授松浦拓也先生から「ルーブリックを活用した学習評価の可視化・授業構成」について御教授していただき、各教科ルーブリックの作成を試みる事ができた。

課題

教育研究部が主導して様々な学習活動を計画してきたが、キャリア教育の一環として、他の校務分掌等とバックキャストिंगの視点で協議し、より一層の充実を図る必要がある。また、個々の生徒に合わせたキャリア教育の充実を図るために、総合的な探究の時間等を中心に各教科等をつなぎ、作成した「深い学び」を生み出すカリキュラム・デザインに基づいて実践をしていく必要がある。

次年度の目標（育成する資質・能力）及び取組内容

学校全体で育成する3つの資質・能力である「見つける力（課題発見力）・考える力（探究力）・繋がる力（社会参画力）」のルーブリックをマスタールーブリックとして、「産業社会と人間」をはじめ各教科・科目におけるルーブリックを単元レベルで作成し、実践を通して、目標・指導・評価の一体化を目指す取組を行う。そのためには、まず、「産業社会と人間」について、「総合的な探究の時間」との関連性も踏まえながら、3年間の学びの流れをインプットからアウトプットまでをキャリアプランニングの視点を踏まえて再構成し、効果的な探究活動を行うための指導の工夫について整理する。具体的には、教育研究部が主導して、進路指導部、教務部等と連携し、「産業社会と人間」において新たな学習活動を計画し、キャリア教育の一環として、バックキャストの視点で協議し、より一層の充実を図る研究を行う。

1. 「産業社会と人間」において、ルーブリックを用いて、目標・指導・評価の一体化を目指す探究学習プログラムを計画する。
2. 「産業社会と人間」において、地域企業を題材に学びを深める新しい探究学習プログラムを開発する。
3. 「産業社会と人間」において、地域企業とのつながりを通して、仕事と学問・教科へのつながりを意識した取組を実施する。
4. 「産業社会と人間」において、地域企業とのイノベーションを通して、各教科で身に付けた知識及び技能が活用できる真新しい授業空間（ノベルティスペース）を設定する。

その後、各教科との関連を深める。